

我が国大学による 国際協力の可能性を拓げる

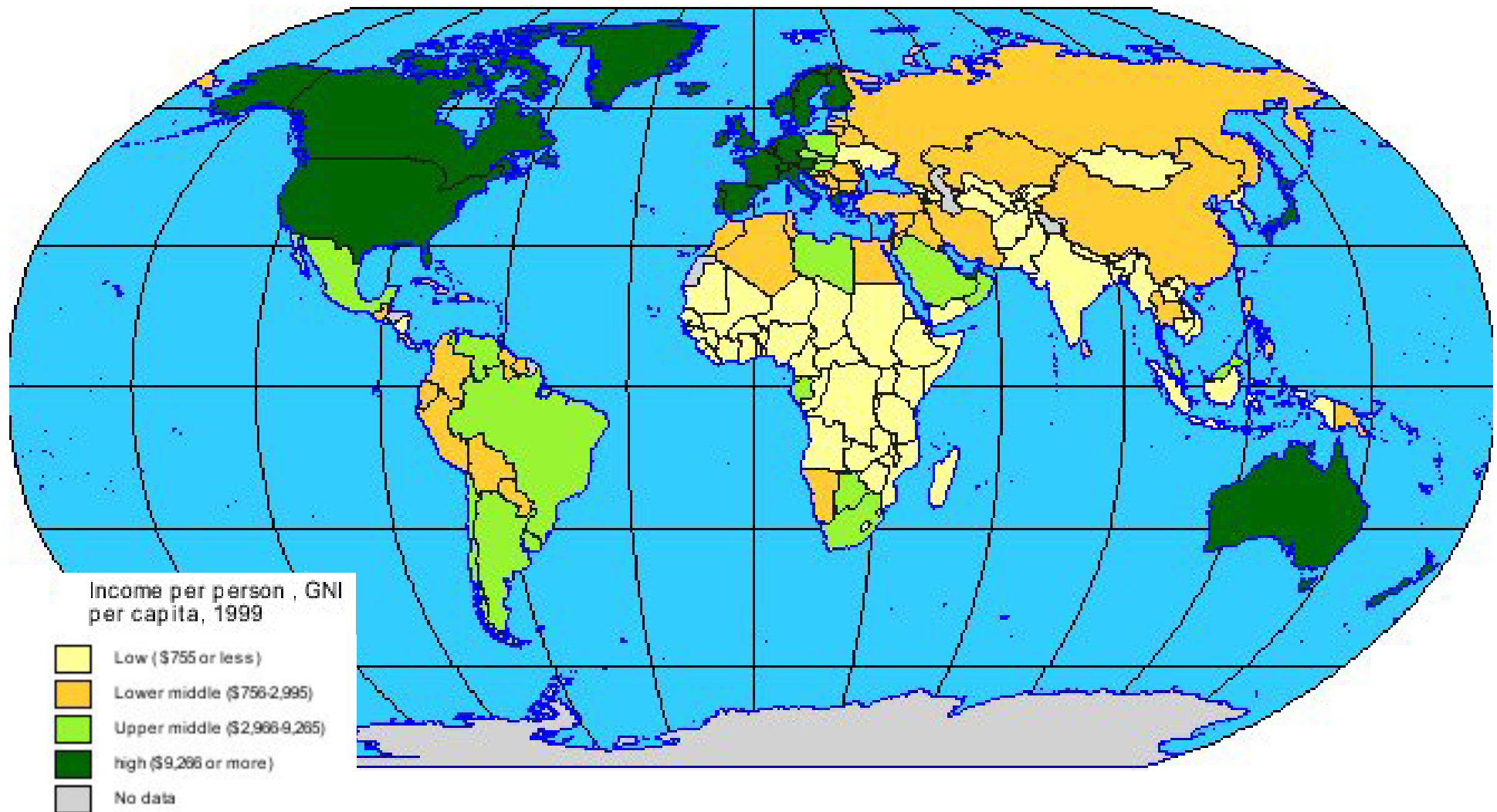
—保健医療分野における開発援助機関との連携—

名古屋大学大学院医学研究科
国際保健医療学
青山温子

保健医療分野における 開発援助機関との連携

1. 保健医療分野の課題
2. 保健医療分野で活動する国際機関
3. 日本の大学と国際機関との連携

世界の1人当り収入 (1999)



(<http://www.worldbank.org/data/> より作成)

保健医療セクターの課題

保健医療政策形成

医療経済と保険制度

保健医療情報システム

薬剤セクター管理

病院管理・病院サービス

地域医療システムとPHC

人材養成・人材管理

疾患対策

リプロダクティブ・ヘルス

健康増進・予防活動

健康改善のための戦略と対策

■ 保健医療システム開発

保健医療費制度、社会保険、保健医療情報管理、病院経営管理、
薬剤セクター管理など

■ 公衆衛生・予防活動

母子保健、家族計画、栄養、予防接種、健康教育、学校保健、
安全な水、下水・汚物処理など

◆ 治療・医療活動

◆ 緊急医療援助

◇ 教育、開発と女性、貧困緩和など

保健医療分野で活動している 開発援助機関の例

	資金協力 (無償援助・融資)	技術協力 (技術移転・役務提供)
国際機関 国連専門機関	世界銀行、アジア開発銀行など、UNDP	WHO、ユニセフ、UNFPA
政府機関 二国間援助機関	JBIC、KfW	JICA、USAID、DFID、GTZ
非政府機関 NGO/PVO/NPO	フォード財団、ゲイツ財団	国境なき医師団、ケア、OXFAM

大学と開発援助機関の協力

組織として

- 大学のある部署がプロジェクトや研修の全体・一部を請け負う
[例] ハーバード大学と世界銀行・USAID
- 大学内に特定目的の組織を設立、他部署の研究・教育と連携
[例] ジョンズホプキンス大学のJHPIEGO

個人として

- 開発援助機関の活動に専門家・コンサルタントとして参加
- NGOを主催して、他の開発援助機関と協力

開発援助機関から見た大学



- 専門的知識・技術を活用できる
- 活動内容の幅をひろげることができる
- 多くの専門的人材を雇用・養成しなくてすむ
- 特定専門分野の部署をつくらなくてよい
- 各種のリソースを活用できる
- 客観的評価と競争原理により効率性・有効性が高まる



- 活用できる専門家についての情報不足
- 目的に沿った活動をしているか監督せねばならない
- 時間がない時に専門家が間に合わないことがある
- 専門性の評価が困難
- 組織が必ずしも適切な人材を備えているとは限らない
- 特定大学・専門家との関係に偏りがち

大学から見た開発援助機関



- 一定の資金枠と活動期間が保障される
- 研究成果を実行にうつすことができる
- 研究・教育のフィールド・人脈・データを得られる
- 政府機関などへのアクセスが容易になる
- 開発援助機関に知識・技術水準を認められたことにより知名度が向上する



- 活動内容や資金の使い方が制限される
- 一定期間内に一定の成果をあげなければならない
- 時期的に難しいことがある
- プロジェクトが中止・変更されることがある
- 適切なプロジェクトがあると限らず、契約継続の保障もない

国際機関との連携を進めるために

顧客のニーズに応える

- 国際機関の要求する知識と技術
- 国際機関の仕事の進め方
- 国際機関が必要とする時期
- 国際機関が必要とする様式の報告
- 国際機関への情報提供

国際機関との連携を進めるために

顧客の選択肢になる

- 他のコントラクターに対する競争力
- 国際機関に対する広報活動・情報交換
- 国際機関からのアクセスが容易
- 国際機関の信頼醸成
- 国際機関への提案

国際機関との連携を進めるために

何ができるか・何をすべきか

- 大学各部署の人事・予算の独立性・流動性
- 横断的・流動的な組織による対応
- 適正な知識・技術・経験をもつ人材養成
- 広報活動・情報交換・国際社会による認知
- 日本側の一体化した対応
- 日本のODAでのコントラクトアウト方式採用